

## 糖尿病治療の状況等に関する設問変更について(案)

- 糖尿病有病者及び糖尿病予備群は、いずれも約 1000 万人と推計されている。過去に糖尿病と診断された者は、一般的に、それ以降、糖尿病患者とみなされることから、糖尿病有病者の推計人数は増加の一途をたどることとなるが、適切な治療を継続することにより、一定数は、重症化や合併症等の予防が可能となる。
- 食事療法や運動療法等により、生活習慣を改善している者の割合を把握し、糖尿病有病者及び予備群の推計人数の推移の状況を検証することが必要であるため、平成 30 年調査以降、以下の設問で把握しているところ。

平成 30 年、令和元年	平成 29 年
<p>(7) これまでに医療機関や健診で糖尿病といわれたことの有無（「境界型である」、「糖尿病の気がある」、「糖尿病になりかけている」、「血糖値が高い」などのようにいわれたことも含む）</p> <p>1 有 2 無</p> <p>↓</p> <p>(7-1) 現在、糖尿病治療の有無（通院による定期的な検査や生活習慣の改善指導を含む）</p> <p>1 有 2 無</p> <p>↓</p> <p>(7-2) 現在どのような状況ですか（複数回答可）</p> <p>1 インスリン注射または血糖を下げる薬を使っている</p> <p>2 通院による定期的な血糖の検査や生活習慣の改善指導を受けている</p>	<p>(7) 現在、aからfの薬の使用の有無</p> <p>(c) インスリン注射または血糖を下げる薬 有・無</p> <p>(8) これまでに医療機関や健診で糖尿病といわれたことの有無（「境界型である」、「糖尿病の気がある」、「糖尿病になりかけている」、「血糖値が高い」などのようにいわれたことも含む）</p> <p>1 有 2 無</p> <p>↓</p> <p>(8-1) 現在、糖尿病治療の有無（通院による定期的な検査や生活習慣の改善指導を含む）</p> <p>1 有 2 無</p>

- 令和元年調査結果によると、糖尿病治療をしている者 270 人における治療の状況として、インスリン注射または血糖を下げる薬を服薬している者は 72.2%(195 人)、生活習慣指導等を受けている者は 70.4%(190 人)であり、検査と服薬は一体となって実施されているように見られるが、詳細な解析を行った結果は、以下のとおり。
  - ・ インスリン注射または血糖を下げる薬のみ「有」 ⇒ 29.4%(79 人)
  - ・ 通院による定期的な血糖の検査や生活習慣の改善指導を受けているのみ「有」 ⇒ 27.5%(74 人)
  - ・ 上記両方について「有」 ⇒ 43.1%(116 人)
- そのため、より適切かつ詳細な検証を行うためには、設問の変更を行う必要がある。

## 対応案

- 経緯を踏まえ、身体状況調査票における糖尿病治療の状況に関する設問について、以下のように変更してはどうか。

(7-2) 現在、通院による治療はどのような状況ですか。

- 1 投薬は受けておらず、血液検査による経過観察や生活習慣の改善指導を受けている
- 2 インスリン注射又は血糖を下げる薬を使っておりかつ、生活習慣の改善指導を受けている
- 3 インスリン注射又は血糖を下げる薬を使っているが、生活習慣の改善指導は受けていない